教職研究
2013. 第 6 号 , 105-116

前置詞 to を用いた未来表現の効果的な教授法の提案
—— to 不定詞の効果的な教授法——

藤原　隆史・脇淵　良太・早野　勇馬（信州大学　人文科学研究科修士課程 2 年）
上條　智緩（学校法人松商学園　秀峰中等教育学校　教諭）

本研究では以下の三点について考察する。すなわち、 (1) 従来の to 不定詞の教授法の概観及びその問題点の指摘、(2) 新しい教授法の紹介、(3) その効果の実証である。

1. 従来の不定詞の教授法とその問題点

1. 1. 教授法としての不定詞の先行研究

中学校学習指導要領解説　外国語編 (2008) では、不定詞の用法の列挙にとどまっている。加えて、高等学校学習指導要領解説　外国語編 (2010) においても、中学校学習指導要領の用法に原形不定詞の用法を加えたにすぎないものになっている。[1]

これまでの不定詞の教授法に関しては、3 用法を前提としたものばかりで、例えば河合 (1983) は、中学校 2, 3 年生で実際に使用されている教科書 5 種類において不定詞の各用法 (名詞的、形容詞的、副詞的) の使われている頻度を調べた結果、名詞的用法が 247 例に対し、形容詞的用法が 92 例、副詞的用法が 46 例という結果であり、名詞的用法が圧倒的多数を占めているにもかかわらず 3 用法がほぼ同時期に導入されていることを問題視している。しかしこのような教授法では 3 用法に分類できないものについては例外として教えることしかできないという問題がある。

1. 2. 従来の指導の成果の検証

上記のような従来の教授法に基づき展開されてきた授業で使用される教科書は、どれも to 不定詞の説明が用法や用例の列挙に留まっている。例えば、著者が勤務する高校で実際に使用している『CROWN　English Communication　I 』 (三省堂) では、図 1 のように説明がなされている。すなわち、各例文を to 不定詞の名詞的用法、形容詞的用法、副詞的用法に分けているだけである。例えば、例文 5 と例文 6 は確かに副詞的用法であるが、例文 5 の to 不定詞は感情の原因・理由を表しているのに対し、例文 6 では目的を表している。この教科書ではそれらの違いを記述していない上に、その意味の違いが生じる原因の説明も

[1] 尚、前学習指導要領 (2002) も現学習指導要領 (2011) も to 不定詞の 3 用法を列挙しているという点では変わらない。

されていないため、学習者がその本来の to 不定詞が表す意味を理解することはできない。

また、『-est English Grammar 26』 (エスト出版) では、例えば副詞的用法の説明で、目的や感情の原因・理由などに分けられているが、やはりなぜその意味になるのかが説明されておらず、学習者は列挙された例文を覚えることしかできない。すなわち、これらの教科書の説明では、学習者の負担が増えるだけであり、合理的な学習方法とは言えない。

図 1 :『CROWN　English Communication　I 』 (p.12)

そこで、このような従来の教科書を用いて指導を受けてきた生徒が to 不定詞をどの程度理解しているのかを観るため、我々は信州大学 1 年生の英語の授業で to 不定詞の日本語訳テストを行った。その誤答例をエラーアナリシスして分かったことは次の点である。すなわち、中等教育における従来の教授法では意味の識別、特に副詞的用法の「目的」、「結果」が区別できないことである。以下にその例を示す。

以下の文を日本語訳しなさい。

(1) She opened the door to notice that someone was sleeping there.

(誤答例) 彼女はそこで誰かが寝ていることを知るためにドアを開けた。

(2) He turned that corner to encounter John.

(誤答例) 彼はジョンに会うためにその角を曲がった。

1. 3. 以上から見える課題

1. 2. の結果から、従来の教授法では十分に to 不定詞を理解できないことは明白である。そこで我々の課題は、単なる用法の列挙ではなく、包括的な説明が可能な教授法を作ることである。

2. 新しい教授法の紹介

本研究は、上條ら (2012) で提案された to 不定詞の新しい教授法をもとに、教材作成を行った。以下はその教授法をスライドにまとめたものである。

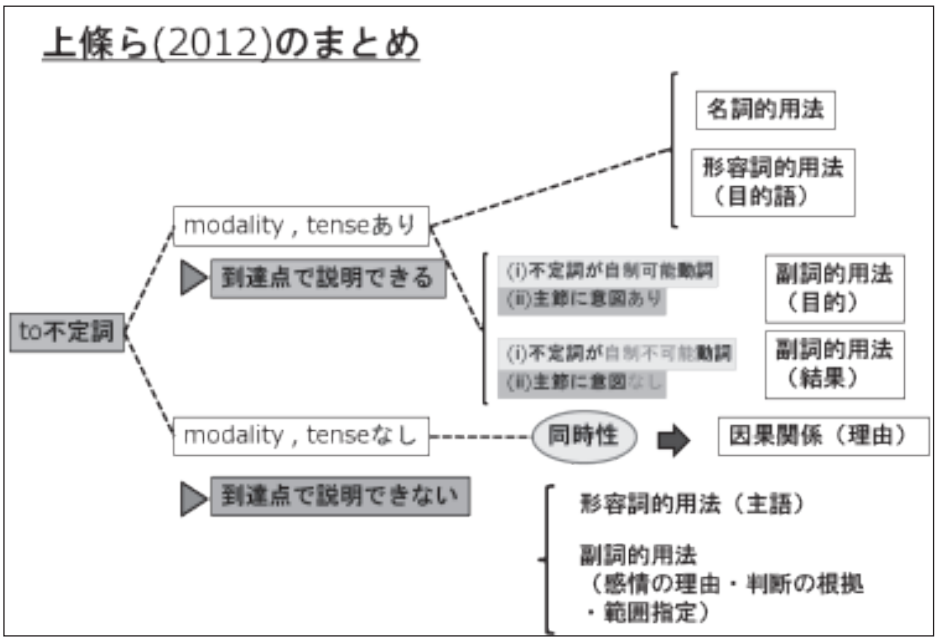


図 2：to 不定詞の用法誘導条件

図 2 は to 不定詞の各用法がどのような条件で生起するかをまとめた図である。従来の to 不定詞の教授法では、用法の列挙に留まっていたが、新しい教授法では意味誘導条件を提示することで用法の丸暗記をせずとも効率的に意味を導き出せるような説明を加えた。

先ず、to 不定詞が用いられた場合、「到達点」で説明できる (modality や tense がある) も

のとそうでないものに分けた。例えば、He wants to be a lawyer という名詞的用法の文では、to 以下が表す事象が起こるのは未来のことであると考えられる (つまり tense がある) ので、「到達点」で説明が可能となる。また、I have some letters to write という形容詞的用法の文では、手紙をこれから書くべき (should という modality がある) と解釈できるため、やはり「到達点」で説明が可能である。さらに、to 不定詞が表す動作が自制可能であれば副詞的用法の目的と解釈され、自制不可能であれば副詞的用法の結果と解釈できる。

次に、到達点で説明できない (modality や tense がない) ものは、「同時性」という考え方を導入することで説明する。例えば、I'm glad to see you here という副詞的用法の文では I'm glad と to 以下の see you here が同時に提示されることで、何らかの因果関係を認め、その結果感情の原因・理由として判断されることになる。また、Troy was the first to recover という形容詞的用法の文では、the first と recover という事象は同時的に認識されることで、「回復したのが最初」とみなされ、「回復した最初の」という意味に解釈される。

このように、従来の教授法が単なる用法の列挙に留まっていたために、膨大な数の例文を暗唱するなどして記憶していかなければならなかったが、新しい教授法では意味誘導条件を用いることで、能率的かつ正確に意味を把握することが可能となり、学習効率を高めることが期待できる。

3. 検証試験

我々は前章で提案された教授法の効果の有無を確かめるために以下の方法をもって検証した。

1. 信州大学 1 年生により構成される同程度の学力を有する二つの母集団を用意する (Placement test により担保)。
2. 共に解説前と解説後の二回テストを行い、解説の前後で全員の平均点と、解き終えるまでの解答時間を算出する。
3. 母集団 A は従来の用法中心の教え方で解説。母集団 B は to の到達点と同時で分けて解説。

(公平性を保つため、二つの解説は共に同じ時間 (10 分間) で行った。倫理的観点から、従来型の解説を行った学生には、二回目のテスト後に母集団 B に行った解説をした。)

効果的な教授法の検証方法とその結果

検証試験結果

	母集団A (従)35名	母集団B (新)36名
平均点(解説前)	２．２３点	１．４２点
平均点(解説後)	２．４３点	３．０８点
差	＋０．２点	＋1．６６点

※満点は５点。

	母集団A (従)	母集団B (新)
解答時間(解説前)	５分１２秒	４分１３秒
解答時間(解説後)	４分３１秒	３分１５秒
差	－４１秒	－５８秒

図 3：検証試験の結果

結果は、平均点 (5 点満点) が母集団 A は解説前が 2.23 点だったのが解説後は 2.43 点と 0.20 点の上昇であった。対して母集団 B は解説前が 1.42 点だったのが 3.08 点と 1.66 点の上昇が見られた。また、解答時間は母集団 A の解説前が 5 分 12 秒だったのが、解説後は 4 分 31 秒と－41 秒の短縮だったのに対し、母集団 B の解説前が 4 分 13 秒だったのが、解説後は 3 分 15 秒と－58 秒であり、若干の改善が見られた。

4. まとめ

以上から、to 不定詞は上條ら (2012) のように「到達点」と「到達点でない」に分け、「到達点でない」方を「同時」で説明することによって to 不定詞に見られる「因果関係」を説明し、作成した教授法で指導することで学習者の理解度の向上が期待できる。

参考文献

安藤貞雄 (2005) 『現代英文法講義』, 開拓社.

河合忠仁 (1983) 「中学英語教科書における不定詞」.『近畿大学教養部紀要』 第 14 号:169-183

上條智緩・黒岩美里・早野勇馬 「前置詞句及び不定詞句を導く to の検証」. 学会発表. 日本英文学会中部支部第 64 回大会. 2012 年 10 月 27 日. 於南山大学.

『中学校学習指導要領解説　外国語編』(2008), 文部科学省.

『高等学校学習指導要領解説　外国語編』(2010), 文部科学省.

付録

1. テスト（教授前）

前半

1. (　) の中に当てはまるのに適切な選択肢を選び、記号で答えなさい。

(1) I got up early (　　) the train
ア．catching イ．to catch ウ．to have caught エ．わからない
(2) You were a fool (　　).
ア．to have agreed イ．to agree ウ．agreeing エ．わからない
(3) I finished (　　) breakfast this morning at six.
ア．to eat イ．to eating ウ．eating エ．わからない
(4) She is used (　　) with foreigners.
ア．talking イ．to talk ウ．to talking エ．わからない
(5) I bought some pencils (　　) that examination.
ア．to taking イ．to take ウ．taking エ．わからない

2. 以下の文の間違っている部分を示し、正しい形に書き替えなさい。直す部分が無い場合は、「なし」と回答欄に記入しなさい。わからない場合は空欄のままにしなさい。

(1) I'm glad to have met you. 「あなたにお会いできてうれしいです。」
誤りの語：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿、訂正後：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
(2) She gets angry to do such a thing. 「彼女がそのようなことをして怒っている」
誤りの語：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿、訂正後：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
(3) She comes to be a fool to say so.「彼女はそのようなことを言うなんて愚かである。」
誤りの語：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿、訂正後：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

3. 以下の文を日本語訳しなさい。
(1) He turned that corner to encounter John.
(2) She opened the door to enter the room.

2. テスト（教授後）

後半

1. ( ) の中に当てはまるのに適切な選択肢を選び、記号で答えなさい。

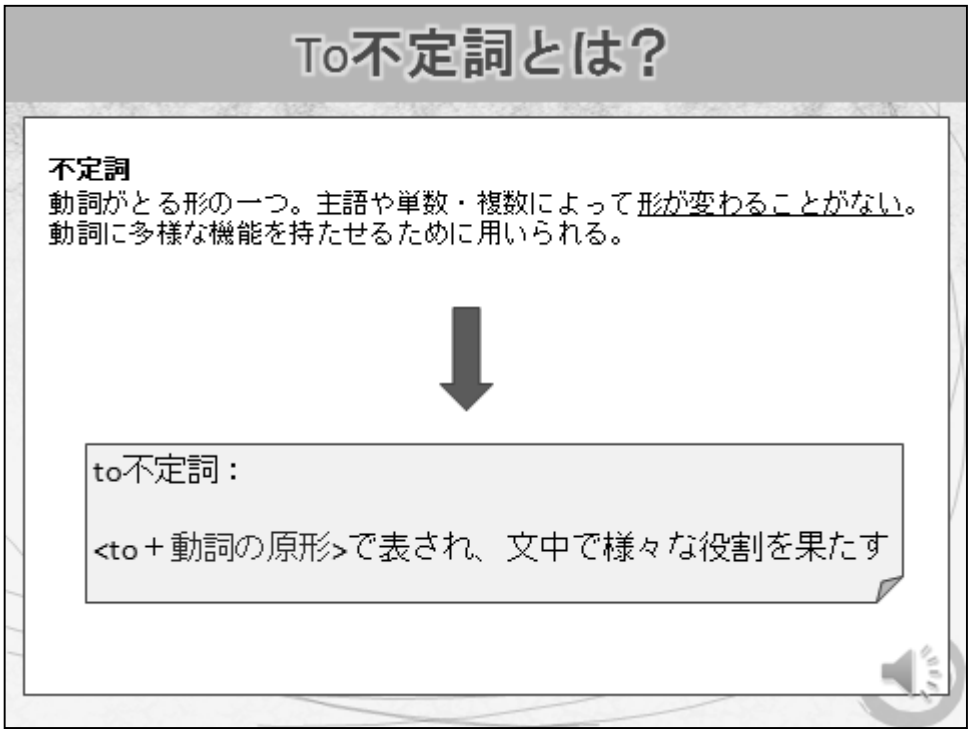
(1) He went to the station (　　) her.
ア．to meet イ．meeting ウ．to met エ．わからない
(2) They enjoyed (　　) soccer yesterday.
ア．to play イ．to playing ウ．playing エ．わからない
(3) He must be a genius (　　) the questions.
ア．solving イ．to have solved ウ．to solve エ．わからない
(4) I'm looking forward (　　) you.
ア．see イ．to see ウ．to seeing エ．わからない
(5) I read this book (　　) a report.
ア．to writing イ．to write ウ．writing エ．わからない

２．以下の文の間違っている部分を示し、正しい形に書き替えなさい。直す部分が無い場合は、「なし」と回答欄に記入しなさい。わからない場合は空欄のままにしなさい。

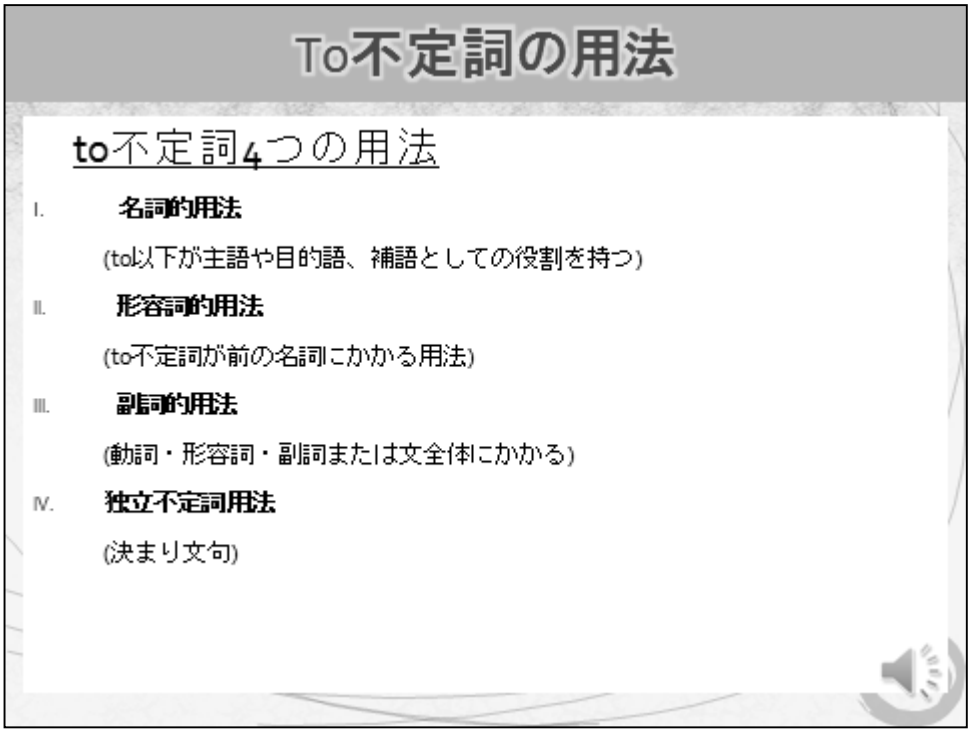
(1) I'm glad to have talked to you. 「あなたとお話しできてうれしいです。」
誤りの語：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿、訂正後：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
(2) The little girl got sad to lose her doll. 「小さな少女が人形を無くして悲しんでいた」
誤りの語：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿、訂正後：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
(3) She will be a genius to solve the question. 「彼女はその問題を解くなんて天才である」
誤りの語：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿、訂正後：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

3. 以下の文を日本語訳しなさい。
(1) She opened the door to notice that someone was sleeping there.
(2) She turned on the light to read the book.

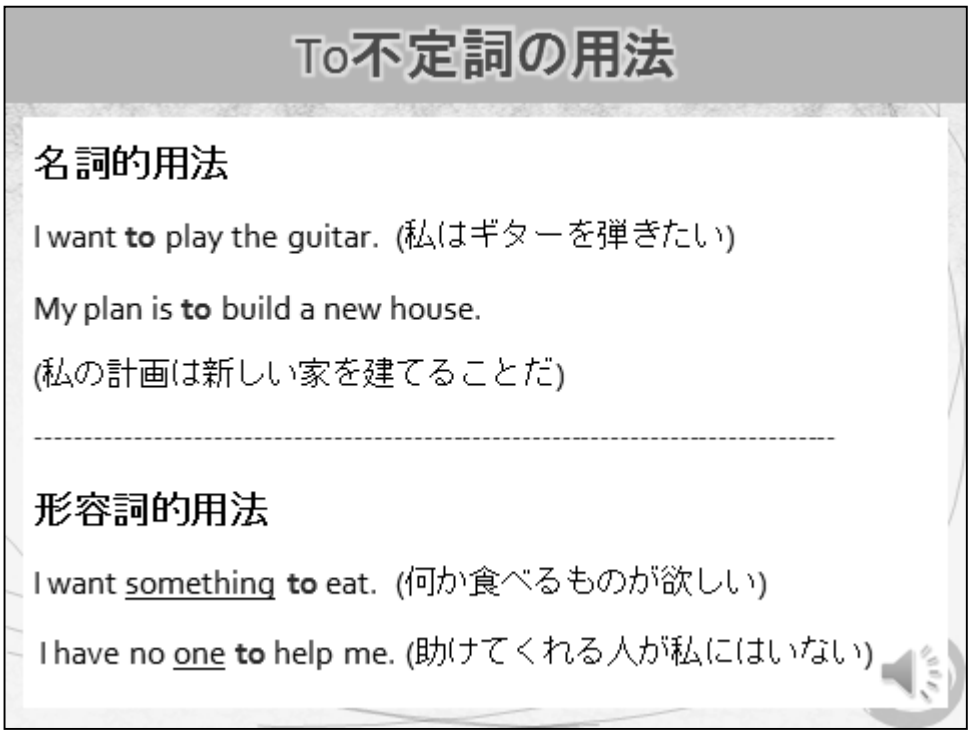
3. 従来の教授法に基づく説明スライド



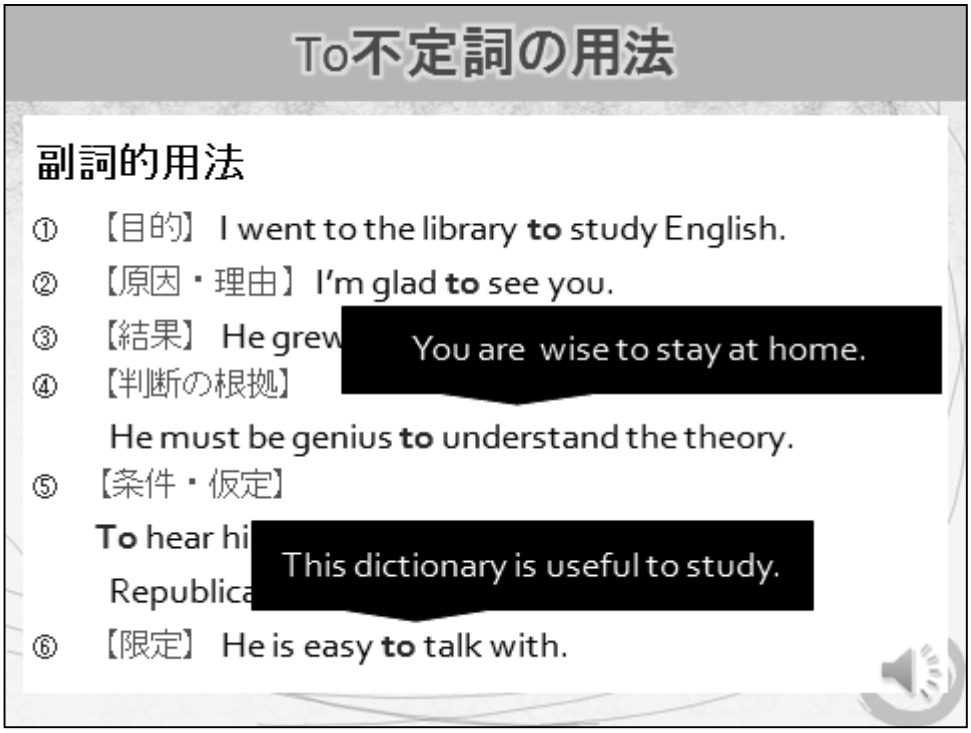
3-1



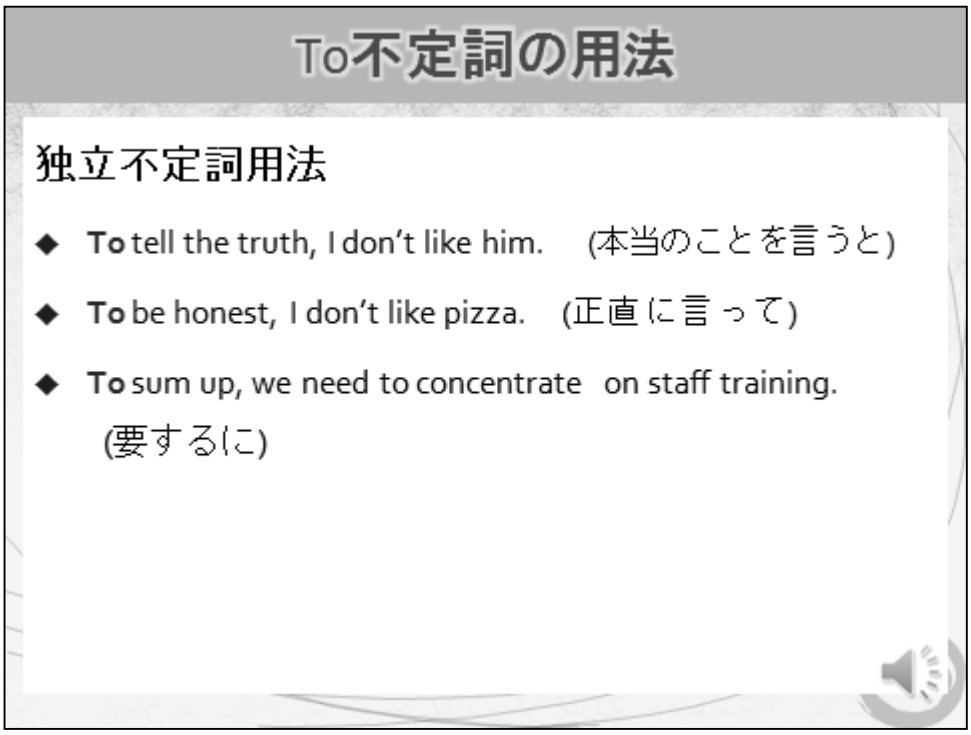
3-2


To不定詞の用法
名詞的用法
I want to play the guitar. (私はギターを弾きたい)
My plan is to build a new house.
(私の計画は新しい家を建てることだ)
形容詞的用法
I want something to eat. (何か食べるものが欲しい)
I have no one to help me. (助けてくれる人が私にはいない)

3-3

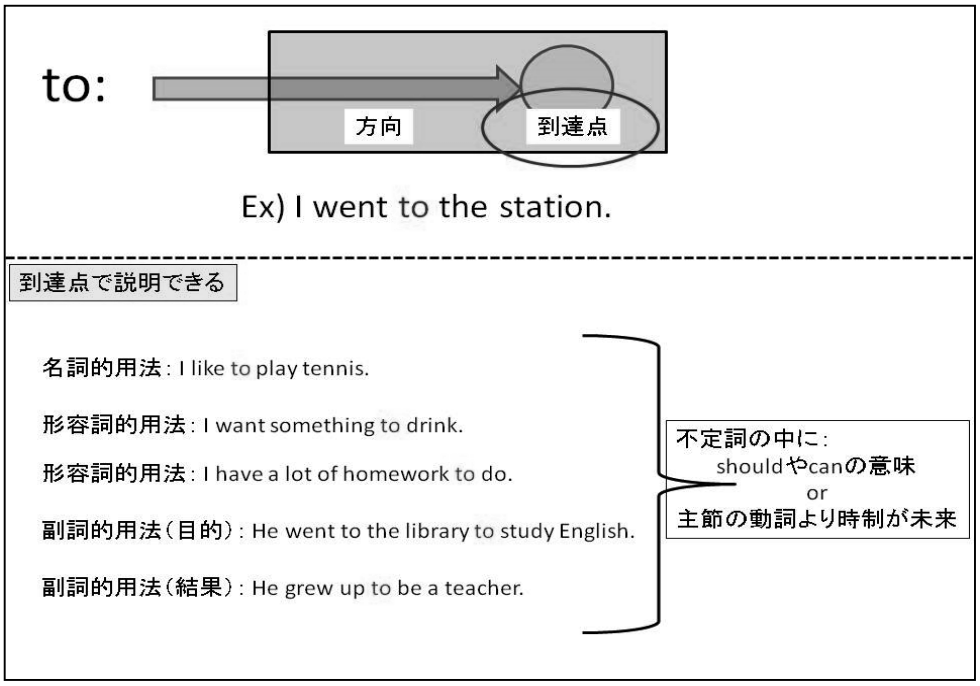

To不定詞の用法
副詞的用法
① 【目的】 I went to the library to study English.
② 【原因・理由】 I'm glad to see you.
③ 【結果】 He grew
You are wise to stay at home.
④ 【判断の根拠】
He must be genius to understand the theory.
⑤ 【条件・仮定】
To hear hi
This dictionary is useful to study.
Republica
⑥ 【限定】 He is easy to talk with.

3-4

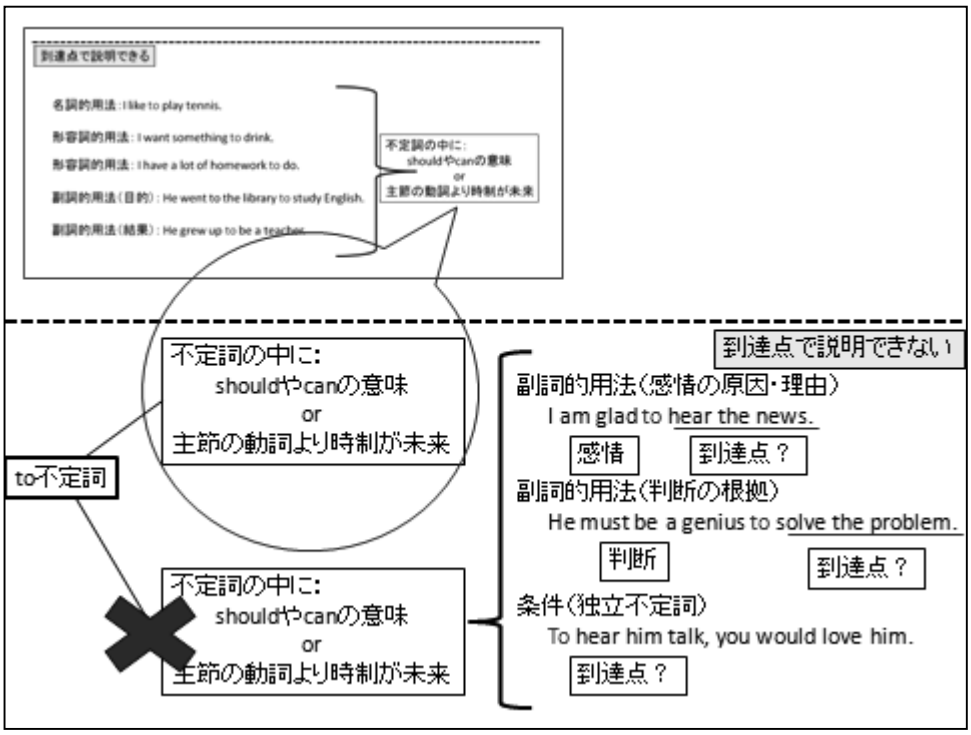


3-5

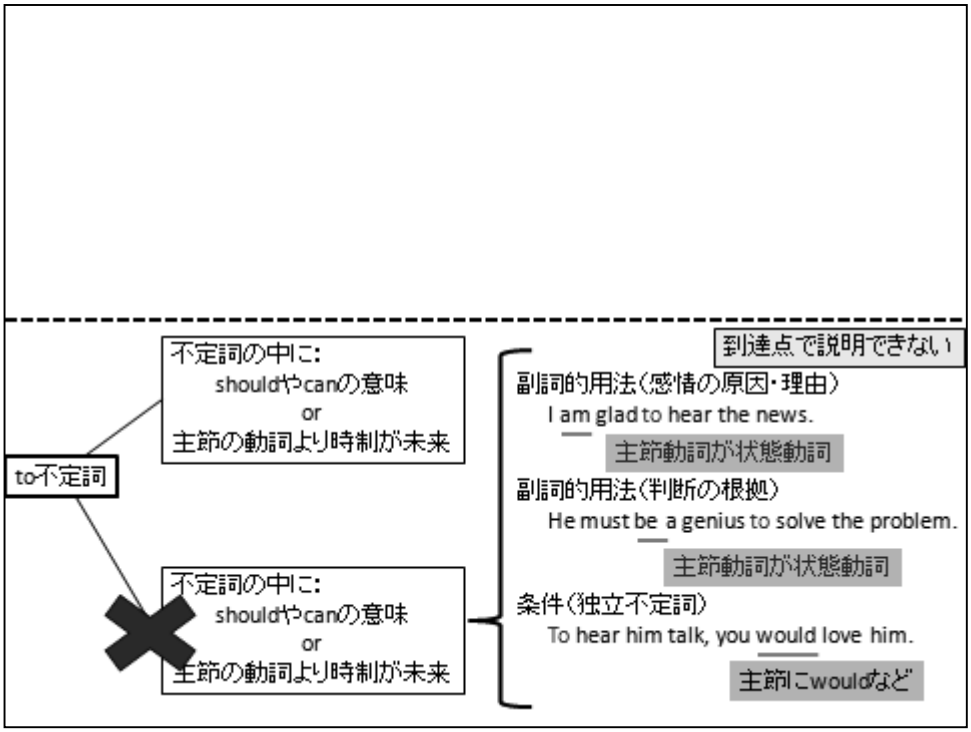
4. 我々が提案した教授法に基づく説明スライド



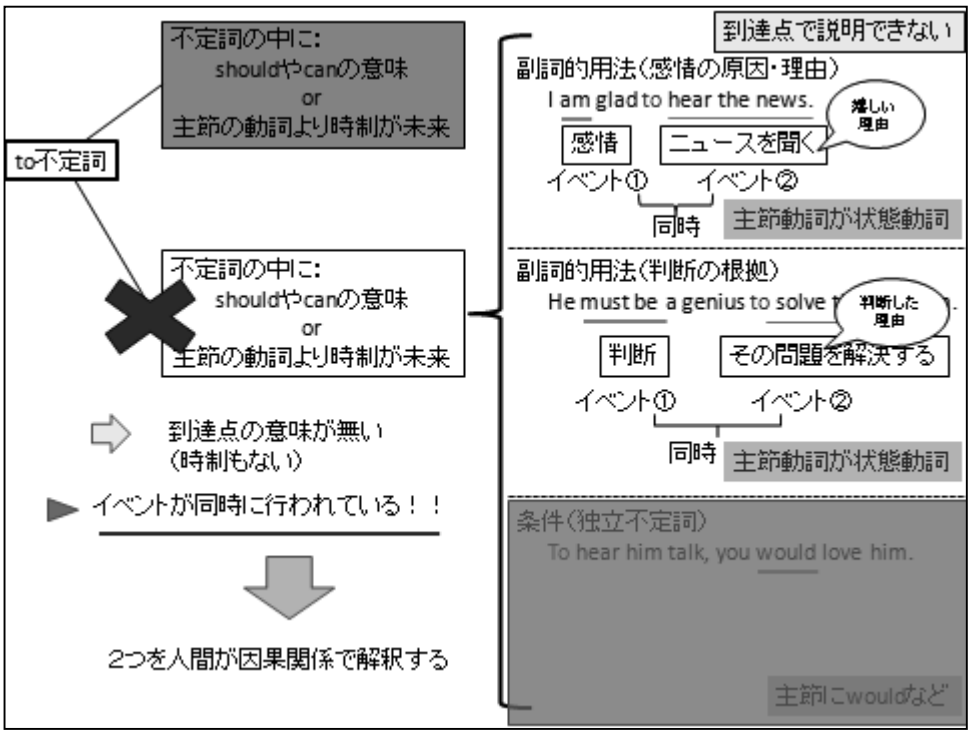
4-1


到達点で説明できる
名詞的用法：I like to play tennis.
形容詞的用法：I want something to drink.
形容詞的用法：I have a lot of homework to do.
副詞的用法（目的）：He went to the library to study English.
副詞的用法（結果）：He grew up to be a teacher.
不定詞の中に：
shouldやcanの意味
or
主節の動詞より時制が未来
to不定詞
不定詞の中に：
shouldやcanの意味
or
主節の動詞より時制が未来
不定詞の中に：
shouldやcanの意味
or
主節の動詞より時制が未来
到達点で説明できない
副詞的用法（感情の原因・理由）
I am glad to hear the news.
感情
到達点？
副詞的用法（判断の根拠）
He must be a genius to solve the problem.
判断
到達点？
条件（独立不定詞）
To hear him talk, you would love him.
到達点？

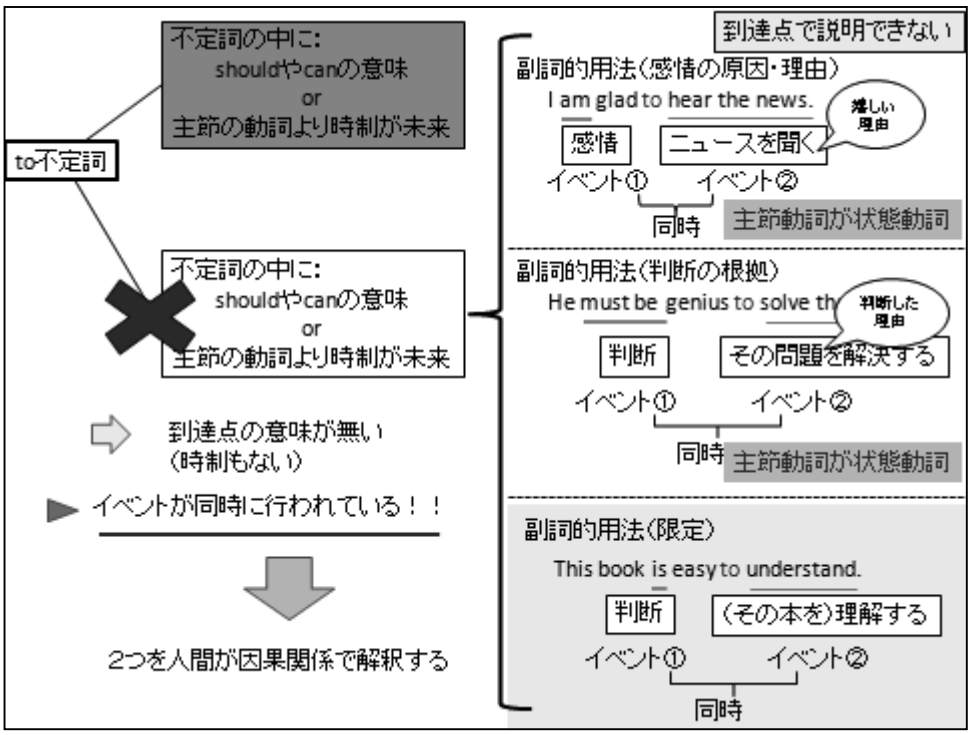
4-2


不定詞の中に：
shouldやcanの意味
or
主節の動詞より時制が未来
to不定詞
不定詞の中に：
shouldやcanの意味
or
主節の動詞より時制が未来
到達点で説明できない
副詞的用法（感情の原因・理由）
I am glad to hear the news.
主節動詞が状態動詞
副詞的用法（判断の根拠）
He must be a genius to solve the problem.
主節動詞が状態動詞
条件（独立不定詞）
To hear him talk, you would love him.
主節にwouldなど

4-3


不定詞の中に:
shouldやcanの意味
or
主節の動詞より時制が未来
to不定詞
不定詞の中に:
shouldやcanの意味
or
主節の動詞より時制が未来
到達点の意味が無い
(時制もない)
イベントが同時に行われている！！
2つを人間が因果関係で解釈する
到達点で説明できない
副詞的用法(感情の原因・理由)
I am glad to hear the news.
嬉しい理由
感情
ニュースを聞く
イベント①
イベント②
同時
主節動詞が状態動詞
副詞的用法(判断の根拠)
判断した理由
判断
その問題を解決する
イベント①
イベント②
同時
主節動詞が状態動詞
条件(独立不定詞)
To hear him talk, you would love him.
主節にwouldなど

4-4


不定詞の中に:
shouldやcanの意味
or
主節の動詞より時制が未来
to不定詞
不定詞の中に:
shouldやcanの意味
or
主節の動詞より時制が未来
到達点の意味が無い
(時制もない)
イベントが同時に行われている！！
2つを人間が因果関係で解釈する
到達点で説明できない
副詞的用法(感情の原因・理由)
I am glad to hear the news.
嬉しい理由
感情
ニュースを聞く
イベント①
イベント②
同時
主節動詞が状態動詞
副詞的用法(判断の根拠)
判断した理由
判断
その問題を解決する
イベント①
イベント②
同時
主節動詞が状態動詞
副詞的用法(限定)
This book is easy to understand.
判断
(その本を)理解する
イベント①
イベント②
同時

4-5